

第1章 基本理念

- ・「醜悪さとともに」よりも「醜悪さを知るとともに」の文言が良いのではないか。

第2章 保存・公開の可能性

- ・デジタル技術等による保存・公開の可能性に限定すれば妥当性がある。
- ・文化財指定への取組で、「中長期的」という文言ではなく「2026年（令和8年）、首里城公開を目途に指定する方向で取り組む」という文言を入れてほしい。
- ・第5坑口・坑道について、本格的な発掘調査をしてほしい。
- ・32軍壕の全体像をどうやって把握するのか、そういうこともどこかに書いて明確にしておいた方が理解が得られるのではないか。
- ・日本のトンネル工事の技術（補強構造）及び壕壁の可視技術（アクリル板）等の安全対策に係る費用を確保する必要があるのでは。

第3章 平和発信・継承のあり方

- ・沖縄戦の実相だけでなく、その前からの構造や近隣諸国との関係を知るべき。

提言策定に向けた委員意見

- ・ 沖縄戦の実相や歴史的価値を後世に正しく継承するとは、誰にとって正しいのか。主語を曖昧にするのではなく、ファクトに基づいた事実を正確に継承することが必要なのでは。
- ・ 沖縄戦の司令部がここ首里にあったということは、地元を知るうえで大事なこと。
- ・ ウェブサイトによる情報発信の場合、もう少し具体的にターゲットを決めた方が各論の話ができるのでは。また、つくることだけに力を注ぐのではなく、その後の伝える、検証することも大事である。
- ・ 調査研究で収集する資料は正確に。証言記録に関してはその当時の言葉は大事にしてほしい。
- ・ 平和教育・学習については、入壕して得られる皮膚感覚、体験感覚が非常に重要なので、坑口だけでなく坑道までの活用を考えてほしい。
- ・ 展示する際にはわかりやすくストーリー仕立てにする工夫も必要。
- ・ アメリカ国立公文書館には、米軍諜報部による調査段階の資料がある可能性が十分にあるので、資料収集に挑戦してほしい。

提言策定に向けた委員意見

- ・証言については、例えば一中の生徒、鉄血勤皇隊、師範学校生徒等にポイントを絞って収集してほしい。また太田県政時代の新聞記事や学校記念誌も調査してほしい。
- ・文字資料が少ないのであれば、物資料が大事である。これは将来の展示室に繋がる。
- ・展示活動は、ほかの資料館との関連ではなくこの現場で学べる展示施設や管理事務所を第5坑口あたりに設置すればこの壕がもっと生きてくる。
- ・住民の視点に立った展示を展開することが必要。
- ・調査研究は、県職員では厳しいと思われるので予算化してアメリカ国立公文書館へ専門の人が調査に行けるようにした方が良い。
- ・この壕で何が起こったのかということのも大変重要だが、なぜこういうことになったのかも知るべき。戦闘が劣勢だったのに南部撤退を決めたのが旧日本軍の体制や構造によるものなのか。そういったことを知ることでより考えることができるので、可能な限り旧日本軍の資料も収集し編纂してほしい。
- ・一中同窓会や一中学徒生存者による書籍が発刊されているので、平和学習のためにも収集して公開した方が良いと思う。

- ・情報発信ソフトウェアは、小さなユニットに分けてPDCAを高速で回して作っていくアジャイル方式を進めていかなければ、最終的には3年後のゴールが現状とずれているということがある。
- ・金銭的には、NFT（偽造不可な鑑定書・所有証明書付きのデジタルデータ）をどう使うか、要はオリジナルデータをどう高く売るかという仕組みを検討してほしい。
- ・32軍壕は牛島司令官以下、約1,000名が入って6か月間生活している。一体どういう生活をしているかという視点も大事なので、例えば風呂・洗濯・食事などはどうしていたのか、そういう証言も含めて調査してほしい。
- ・平和教育・学習への利活用については、記念資料館について検討する必要がある。目的や予算を踏まえ、例えば、展示室、講義室、映像室など、何を備えるべきか検討すべきである。
- ・32軍壕が存在するこの場所の自然環境、例えば地形、地質、地下水、石灰岩の上に首里城が建てられ、さらに戦争、平和という歴史の話があるため、平和教育だけでなく、総合学習として活用できるのではないか。例えば、ボーリング調査などの実録を展示することも可能である。そうすることにより、学ぶ場として広がりが出てくる。

- ・ 沖縄戦の行方を左右する軍幹部がいた32軍壕を公開するのであれば、当時の旧日本軍の体制や思想を探究する必要がある。

第4章 段階的な整備・公開

- ・ 第5坑道を公開するなら、アクセス道路も必要である。

- ・ 整備方針について、駐車場・エレベーター・避難路・空調・照明とあるが、その中に展示施設を追加したらどうかと思う。

- ・ 当面の目標があるかもしれないが、それを達成しても長い時間をかけて継続的にやっていくことが大事であり、継続的という言葉があってもよいのではないか。

- ・ 壕を文化財に指定することと一般の方に見ていただくことは両立できるのか。どこまで手を加えたら文化財の指定に影響が生じるのかしっかり調べた上で、水の浸入などの対策を立てなければならない。

その他（今後のスケジュールについて）

- ・首里地区の住民に対して、32軍壕の保存・公開の取組について行政からの説明がない。地域住民の理解があつてこそ、こういう施設はうまく回ると思われるので、説明会の実施をスケジュールに入れると良い。
- ・ガイドの養成について、公開できる頃に急いで取り組むのではなく、内容やコンセプト等の方向性を決めてスケジュールに落とし込むと良い。